

TRIZの社内展開の方法

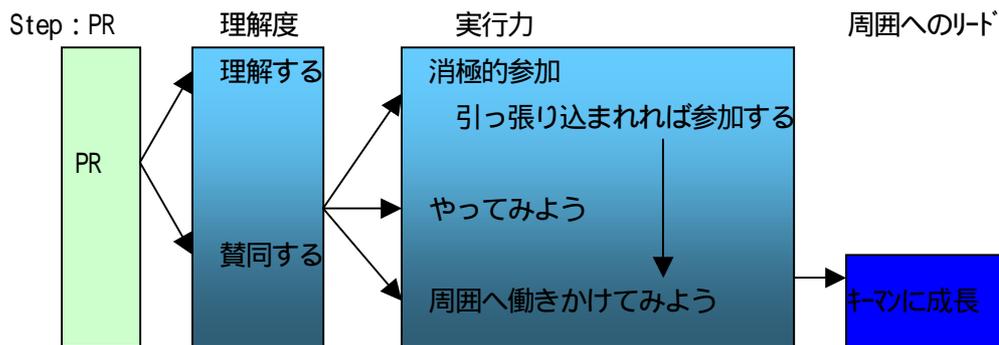
富士写真フイルム（株）足柄研究所

三原 祐治

1. 現状

- ・現状は、TRIZに興味を持つ人はまだまだ少数であり、興味を持っている人の中でもTRIZを自分から進めようとする人は極く一部にすぎない。
- ・従って
 - PRと実践の両面から攻めることが必要。
 - ・技術者にいかに興味を持ってもらうか、であり
それには、「TRIZのPR」が先ず必要である。
 - ・次に、興味を持った人にいかにTRIZをやってみようという気にさせるか、であり
それには成功体験が一番効果的である。
身近な成功体験（=実例）を見聞きすること、更には実践してみて体験することが最も望ましい。

2. TRIZへの興味のアップからTRIZの実行へのStep



TRIZの普及に向けての各Stepでの行動

PR

イントラネットの中に「TRIZホームページ」 全社に公開

底辺の拡大

講演会の実施（百数十人の人を対象に説明会）

TRIZ説明会の実施（課レベルで少人数 and 課長昼食会）

成功体験（On the job で説明&実施）

TRIZの実施

USITの説明・実施

キーマンの養成

講習会の実施（講師三菱総研・富樫客員研究員、岡部研究員）

TRIZの基礎講習会の実施（社内教育部門にコース設定）

3. TRIZの実行の方法

3-1) その基本的な考え方

TRIZの進め方についての中川教授の主張:

TRIZは方法論と知識ベースを組み合わせるべきと提唱されている。

TRIZ = 方法論 + 知識ベース

A) 方法論 (a) は 技術を見る新しい見方を与えるもの

それには優れた [教科書] を用いるとよい。

具体的には Salamatov の「The Right Solution at the Right Time

=日本語訳: 超発明術 TRIZ シリーズ 5 思想編

” 創造的問題解決の極意 ” (日経 BP 社)」など。

B) 方法論 (b) は問題解決の思考方法

具体的には [USIT] を利用。

C) 知識ベース は 方法論(a)を実装する事例集

具体的には [TOPE] を利用

私としても上記の進め方が現在の当社 (or 日本) の状況に最も合っていると思っている。

従って、私の構想も上記の考え方に基づいている。

3-2) TRIZ を積極的にやろうとする意識をどのようにして持たせるか

・現状は

A) 教科書 (方法論 a) ・ Salamatov などを読みこなすのはなかなか骨が折れる

・ 内容が解らない

・ 解った (つもり) だが、どう使っているか、というのが実態。

従って

教科書を読み、理解するという入り口までのナビゲートが必要

(読もうとする意識・意欲の引き出し)

具体的には 読みやすい入門書が必要 (現在は無い)

入門書で興味を持った人に Salamatov を薦める

B) USIT (方法論 b) ・ TRIZ / USIT って面白そう。

・ やってみる価値があるの? 時間をかける価値があるの?

・ 言うことは分かるが実際にはどうやるの? というのが実態。

従って、具体的には下記の対応が必要

(出来れば身近な) 成功例を知ってもらう

自分で成功体験をする

C) TOPE (知識ベース) ・ 知識の宝庫というのは分かるが、でもぴったりの答えがでてこない

・ 大きな武器と言うのは分かるが使いこなせない、 というのが実態。

従って 必要な段階で必要にせまられて使用

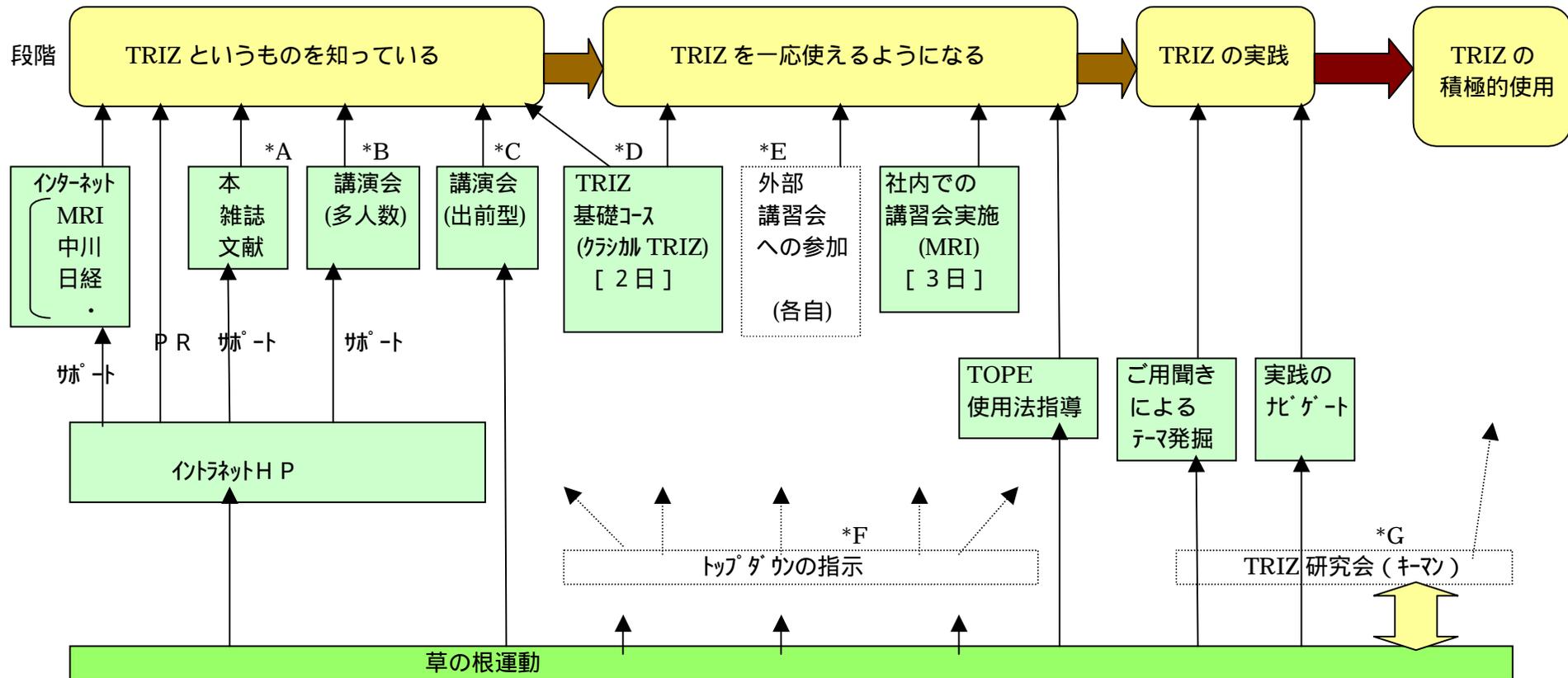
TOPE で知的好奇心を満たして終わってしまわない使い方

といった使い方の指導が必要

以上を整理したものが次表である

4. TRIZの社内展開

三原



各段階で 枠の行動を展開。必ずしも十分にはできていない。

は全く不十分なもの。

*A: 本・雑誌・文献の紹介、図書への整備、貸し出し

*B: 社外講師中心に実施: 2 ~ 3時間

*C: 社内講師 (Text は PowerPoint 中心): 40分から3時間程度 (相手の都合に合わせ)

*D: 2日コース: 教育部門に専用コースとして設置。Text も整備。

*E: 外部講習会への参加は各自に任せている。(参加者のリストは可能な限り入手・把握)

*F: TRIZ をトップダウンの指示で行動するような体制にはなっていない。

*G: TRIZ 研究会 (各部門の TRIZ リーダー層) は、ようやく再開したところ。

5 . T R I Zの普及に向けて

- 実践の方法 -

メンバーは複数人で。

できれば違う部署の人を加える。

できるだけメンバーに議論させる。

思考/検討のプロセスを明示する。

- ・自分が、『今』どの段階で、何をやろうとしているのか を常に明確にしておく

U S I Tの適用は効果的

パソコン操作はインストラクターが行う。

- ・メンバーの人達は議論に集中するようにする。

(パソコン操作はそのうち慣れる)